中央手術部

1. スタッフ（平成24年4月1日現在）

部長（教授）小西 宏明
 副部長（准教授）五十嵐 孝
 （准教授）堀江 久永
 医員（講師）丹羽 康則

2. 中央手術部の特徴

自治医科大学中央手術部は昭和47年に開設され、平成14年8月新棟竣工とともに新館手術室へ移転し現在に至っている。手術室の構造は回収廊下型となっており、清浄度クラス1000の手術室4室とクラス100の手術室が13室の合計17室で構成されている。その他産科専用手術室2室（平成19年から閉鎖中）、子ども医療センター手術室2室が追加された。

（1）診療記録の電子化

平成14年の新棟移転にともない、病院情報システム構築の第一歩として、まず麻酔記録の電子化がおこなわれ（J-CAN：Jichi-Clinical Advanced Network System）、平成18年からは院内の電子カルテシステム（JUMP：Jichi Medical University Universal Medical Information Program）と連携しており、手術申し込み、手術記録、保険情報記録、看護記録などがすべて一元管理となった。ただし物流システムとのオンライン化は行っていない。

（2）中央材料室

中央手術部に併設される形で中央材料室を備えており、選任の看護主任を配置し、手術機器の点検、消毒業務の指導を行い、中央手術部との密接な関連のもとに運営されている。

（3）先端医療機器の設置

現代の進化する手術に対応するべく、医療機器を毎年更新、整備している。手術室にはモニター用カメラが設置され手術室内の状況をコントロール・ルームで監視することができ、またこれとは別に手術野の映像をプラズマディスプレイに表示し、臓器移植手術の進行の調整や学生・研修医の教育、学会の発表などに用いられている。

3. 実績・クリニカルインディケーター

手術件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
H21年度	743	565	792	856	732	687	726
H22年度	748	601	775	758	742	719	785
H23年度	728	697	805	783	849	787	743
手術件数	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
H21年度	703	698	675	698	805	8,680	
H22年度	768	703	687	723	644	8,653	
H23年度	780	704	685	795		8,356	

4. 事業計画・来年の目標等

手術を必要とする患者数（需要）に対して、中央手術部としての人的資源が追いつかない状況は平成23年度も変わらない。当院は大学病院でありながら、「虫垂炎から肝移植まで」こなす全国に例を見ない3次医療機関である。平成23年度は待期手術を調整してきたにもかかわらず結果的に総手術件数は増加している。なぜなら緊急手術が全体の20%超を占めているからである。栃木県における当院の置かれた状況を鑑みると、緊急手術への対応は必須である。しかしながら限られた人的資源の中では自ずと限界はあり、限られた器の中に緊急手術が増加すれば、待期的な予定手術を削減せざるを得ない。引いては患者の手術待ち時間の延長を来す。この至極当然な算数に矛盾解を見つけ出そうとしているのが当部の現状である。

そのような中でも限られた資源の有効活用の観点から、平成24年1月より手術時間の厳格化を開始する。すなわち申込時間は過去の実績に基づいたものとし、さらにその申込時間を厳守する取り組みである。職員ひとりひとりの努力なくしては状況の好転はあり得ない。今後とも現場に見えるかたちの実績数値を提供し、効率的な運用に努めていく。